



前川おさむ後援会会報

vol. **3**号

平成4年**2**月

提言 「本当の意味での財政再建を……」

平成3年9月定例議会一般質問より
前川おさむ議員

平成四年度は、財政再建5ヵ年計画つまり公債費負担適正化計画の最終年度であります。

大変厳しい財政状況の中で、単年度の起債制限比率（自治体が借入金に対して支払う元利金の歳出に占める割合）を16%以下まで下げるといふ目標で、昭和62年から始められたこの計画は、これまでの様々な施策の中で、最優先の課題として実行されてきたわけでありませう。

この間、市民の生活の中にも様々な影響を与えてきたと思います。私も色々な機会でも多くの市民の皆様から、行政に対する苦情や陳情を受けますが、ほとんどの問題が財政上の理由でご辛抱いただいているというのが現状であります。

また、市民の皆様もそのほとんどの方が、ご理解いただきご協力をいただいている姿を見ますと、市民も財政再建の重要性を認識し、市民一丸となって協力し推進している計画であるといつても過言ではないでしょう。

しかしながら、今年度、公債費負担適正化計画が成功し、起債制限比率が16%以下になつても、平成4年度から市民の期待に添うような、つまり市民の生活に密着した社会基盤の整備や福祉、教育などの予算も今までより積極的なものになるかというところではありません。

公債費負担適正化計画はあくまで、国県の指導により、起債制限比率を16%以下まで下げる計画であり、このこと自体が本市の財政再建に直接的にはつながらないということです。

もちろん起債制限比率を下げるということは、赤字再建団体にならない為に必要な事であるし、起債（市が政府や金融機関から借入をする事）をする為にも重要な事でありませう。

しかし、市民の様々なニーズに答える為にはやはり自主財源（市が自主的に徴収できる財源、市民税、

国定資産税等）をふやしていく事が最も必要な事であり、市民の様々なニーズに答える為の財源の確保こそが、本当の意味での財政再建であると思ひます。「三割自治」という言葉がありますが、地方自治体の全体の歳入の合計に占める自主財源、若しくは、市税の割合が三割程度しかないので、事務処理や財政運営の面で国から拘束や制約を受け、自治体が自主性や独自性を欠いている状態を現した言葉であります。本市はまさに三割自治そのものであります。（平成3年度の歳入に占める自主財源の割合は約33%）

今後はやはり、自主財源の増収を図り、三割自治からの脱却を目指すことが、本来の財政再建であると確信いたしております。そのためには、自主財源のほとんどを占めている市民税と固定資産税の増収を図るしかないわけですが、もちろん現在の税率を上げる事はできません。財源を増やす為の方策としては、新風第2号の提言でも述べましたが、人口を増やす為の住宅政策を積極的に展開すること、第2点企業誘致、これは固定資産税の増収（農地が宅地並課税になれば税収は約40〜50倍になります）と人口の流出が防げます。第3点開発行為、これも環境保全を考慮した秩序と節度のあるものであれば、固定資産税の増収と

本市経済の活性化につながるでしょう。

以上のような方策で、本市の財政再建の為に積極的に取り組むことが、今後の大きな課題であると思ひます。



自らの提案で実現した議会のテレビモニターで写される前川議員の一般質問

第三次 菊池市総合計画基本構想 が決定！

(21世紀に継げる菊池市のシナリオ)

第三次菊池市総合計画基本構想は、21世紀に継げる菊池市のシナリオであります。

目標年次を平成12年(二〇〇一年)の人口を3万人、世帯数を9千4百世帯と想定し、「豊か、清らか、さわやか菊池」のシンボルテーマに基づいた、4つの将来像と11の施策の大綱、28のプランからなるものです。

前川議員は菊池総合計画策定審議会の委員として、また一般質問などを通して総合計画の中に、住宅政策や企業誘致等の政策を盛り込むよう働きかけて、森北工業団地につづく新しい工業団地の設定や、熊本テクノポリス計画の定住圏という位置付けをふまえた住宅開発等の計画も、基本構想の中に盛り込んでまいりました。

今後、より具体的な基本計画、実施計画が作成されますが、どんな形で実現するのか楽しみです。

第三次菊池市総合計画基本構想フレーム

シンボルテーマ

豊か
清らか
さわやか菊池

将来像

- ・伝統ある香り高い文教都市
- ・快適な安心福祉都市
- ・美しい歴史温泉観光都市
- ・緑豊かな田園産業都市

目標年次

基本構想 平成3年度～平成12年度(10年間)
基本計画 平成3年度～平成7年度(5年間)
実施計画 3年計画ローリング方式

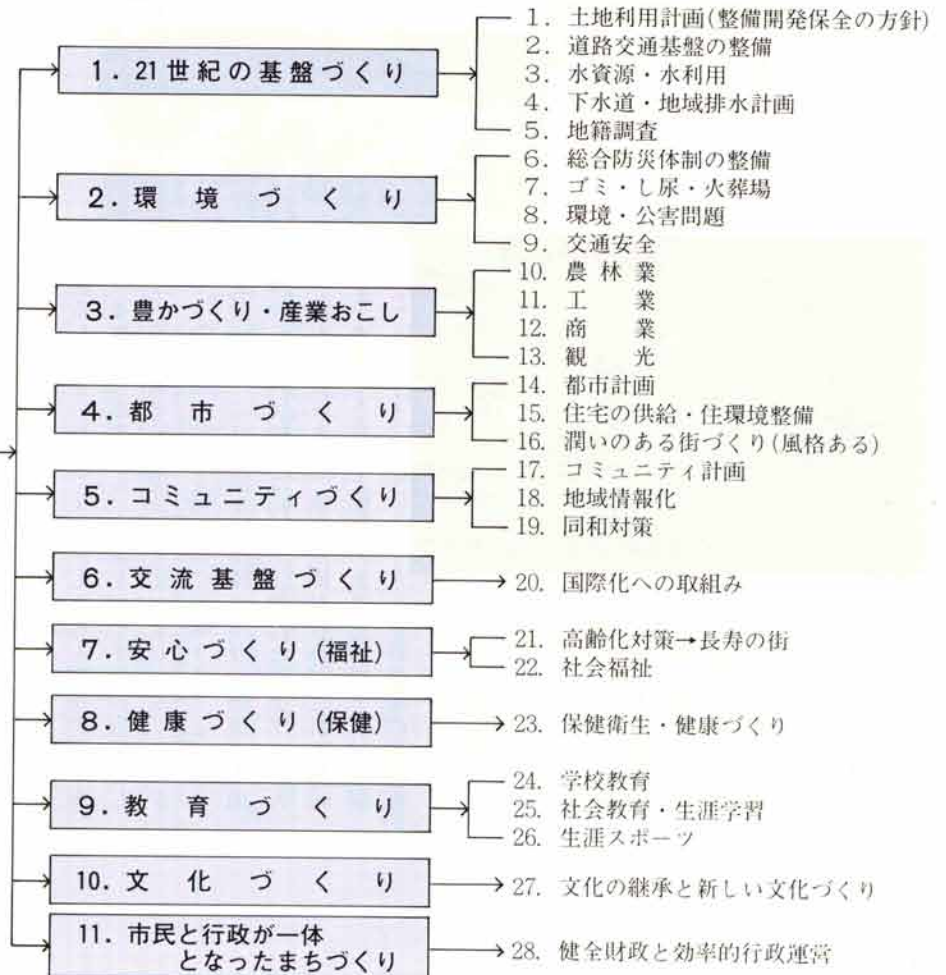
キャッチ・フレーズ

(現・花と緑と清流のまち)

施策の大綱

11の施策(基本方針)

28のプラン





お礼の御挨拶をする前川議員



元県連青年部長の大先輩 魚住防衛政務次官



乾杯の御挨拶の宮村様さん



飛入りで御挨拶いただいた上野重明さん(村田区)



万歳三唱の御挨拶 佐藤辰博さん(高ノ瀬区)



自民党菊池支部婦人部の皆様と



県連を代表して御挨拶をいただいた荒木詔之県議

前川議員再度自民党県連 青年部長に就任

前川議員は、平成3年9月自由民主党熊本県支部連合会の任期満了にともなう、役員改選で、再度北里達之助会長より青年部長の指名を受け、2期目の青年部長に就任しました。

前川収後援会では、2期連続の異例な青年部長の就任をぜひお祝いしようと、約二〇〇名の後援者を集めて、11月17日、菊池観光ホテルにおいて「前川市議自民党県

連青年部長就任祝賀会」を盛大に取り行いました。

まず発起人を代表して、西岡史郎後援会長の御挨拶にはじまり、来賓として防衛政務次官衆議院議員 魚住汎英先生、自民党県連を代表して荒木詔之県議(菊池郡選出)議會を代表して境敬昭議長、同僚議員、清新会を代表して森田精一議員とそれぞれの先生より、御祝辞をいただき、前川議員の御礼の

言葉、宮村様さん(片角区)の乾杯により、開宴しそれぞれの後援者同志の親睦を深め、前川議員に託す夢を語り合いました。途中で村田区の上野重明さん(元校長先生)から、平成2年7月の大洪水の時の、エピソードが、ユーモアたっぷりの口調で飛び出し、和気あいあいの宴も佐藤辰博さん(高ノ瀬区)の万歳三唱で終了しました。

『前川收君に期待するもの』

前川收後援会会長 西岡 史郎



祝賀会で御礼を述べる
西岡史郎前川收後援会長

私達同志で市政に送って早くも四年になろうとしている。又、彼は彼なりに市の発展を願う。昨ら日夜努力している姿を見るたびに頭の下がる思いをいつも感ずる。同じ上町に生れ育ち、誰よりも身近に暮らした一人として心強く思っている。先に行なわれた熊本県自由民主党県連の総会に於ては、再度青年部長として選任された事は頼もしい限りでもある。その祝賀会に私は、次のお祝いの言葉を申し上げたのである。今日の若者の好きな言葉の中に、一、愛、二、努力、三、誠実という事であるが、その一つ一つを充分心に備えているのは前川君ではなからうかと!! 彼は愛情ある政治家であり、すべてに努力する政治家であり、心に誠実さを持つている人間であると。そして特に地域の住民の声に良く耳を傾け、それを市政に反映させてくれるのも彼である。又、今回本年度第四回定例市議会は、総合計画基

本構想が審議されました。そして次の四つの構想が発表されました。

- 一、伝統ある香りの高い文教都市
- 一、快適な安心福祉都市
- 一、美しい歴史・温泉・観光都市
- 一、緑豊かな田園産業都市

一つ一つが私達市民の願いであり、早速実現してもらいたいものである。私事で申し訳ないが、去る二月一日から二月二日早朝迄の県立劇場での「動と静を観る会」鈴木健二氏企画演出に私達「静」で「御松雛子御能」で出演させていただいたが、翌二月二日午前八時三十分より特別室にて、東京からの記者団約十五名の方々と合同記者会見の席上で鈴木館長が、皆さんよく聞いて下さい。「今ただ今、国や県や市町村が伝統芸能に手を差しのべていただかないと、そして今の内に老人の方々が、次の世代の若者や子供達に、その地域に残る伝統芸能を教えたいただかないと、長くて四年短かくて二年で日本の芸能は、我が国から消え去って行くだろう」との危惧の言葉が出ました。なぜなら、今、町や農村は過疎になやみ、若者は都会へ都会へと出て行くからであると!!

伝統ある香りの高い文教都市「菊池」発展のためにも、私達も力を合わせ前川君共々一肌も二肌もぬいでいただき、心から彼に期待をしながら一層の声援を送るものである。

●前川おさむプロフィール

●生年月日/昭和35年7月9日

●血液型/O型

●経歴/県立鹿本高校 昭和54年卒業、九州測量専門学校土木建設科 昭和56年卒業、現在カルフォルニアコースト大学日本校経営学部の通信教育で勉強中、東海測量設計社 昭和56年入社 昭和59年退社、㈱八方建設 昭和59年入社、㈱キクチゴルフセンター 昭和59年創立、菊池市議会議員 昭和63年初当選(1期)、菊池市議会議員 平成元年当選(2期)

●主な役職/菊池市文教厚生常任副委員長

自由民主党熊本県連青年部長
菊池市商工会理事
菊池市商工会青年部理事
菊池青年会議所委員
熊本県防衛協会青年部菊池支部長



前川おさむ後援会

事務所：〒861-13菊池市赤星2114-1
TEL 0968-24-2171 FAX 0968-24-2111

自宅：〒861-13菊池市片角119-2
TEL 0968-24-0471



上町区の首長と歩け歩け大会に参加(鳳来山聖護寺にて)

『議員より一言』

平成四年の正月も終り厳寒の2月、皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日、私の友人である、植木町議の村上さんの招きで、「植木町人口3万人を考えるシンポジウム」にパネラーとして参加しました。町である植木が、人口3万人を突破し、市である菊池の10年後の人口目標が3万人、大変さびしい複雑な心境でしたが、くよくよ考えてもしょうがないので、まず行動、今年は「思いついたら即行動、結果はあとからついてくる」をモットーに頑張りたいと思います。

わたしは大学を出ていないので、大卒の資格を取ろうとチャレンジしたカリフォルニアコースト大学の卒業論文をやっと書きおえました。テーマは「地域中心城市における市街地の活性化、菊池市の場合」です。菊池市は菊池地域の中心城市であるべきで、そのためには、都市機能が充実した市街地が必要であるという持論をモチーフに書いた論文です。たいした内容ではありませんが、興味のある方は御連絡をください。

また市政全般に対する御意見御要望がありましたらどんどんお寄せください。皆様の声をお待ちしております。